

エコアクション 21 環境経営レポート

< 2023 年 4 月 ～ 2024 年 3 月 >



株式会社森田スプリング製作所

作成日 : 2024 年 6 月 18 日

目 次

認証・登録の対象組織・活動、組織の概要	2
環境経営システム図、役割・責任・権限について	3
主な環境負荷の実績	4
環境経営方針	5
環境経営目標および 2023 年度実績	6
主要な環境経営計画の内容	7
マテリアルバランス、環境関連法規の遵守状況	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11

～ ごあいさつ ～

創意と誠意のバネづくりをモットーに
昭和 32 年の創立以来お客様と共に歩んでまいりました。
設計から製造、品質管理までの一貫した生産体制と
今後一層望まれる環境経営への取り組みをはかって
お客様により安心して環境にやさしい製品づくりを進めてまいります。

株式会社森田スプリング製作所
代表取締役社長 森田 征樹

認証・登録の対象組織・活動

登録組織：株式会社森田スプリング製作所 代表取締役社長 森田 征樹
活動：各種スプリング・板ばねの製造ならびに販売

組織の概要

所在地

〒630-0255 奈良県生駒市山崎新町 8 番 25 号

環境管理責任者 及び 担当者連絡先

責任者 EA21 事務局 社長 森田 征樹
担当者 EA21 事務局 総務 清土 春華
☎ 0743-73-2517

創立年月日

1957 年 4 月 25 日

事業内容

各種スプリング・板ばね製造並びに販売

従業員数

30 名

売上高

43,628 万円（2023 年度）

延べ床面積

1,311 m²

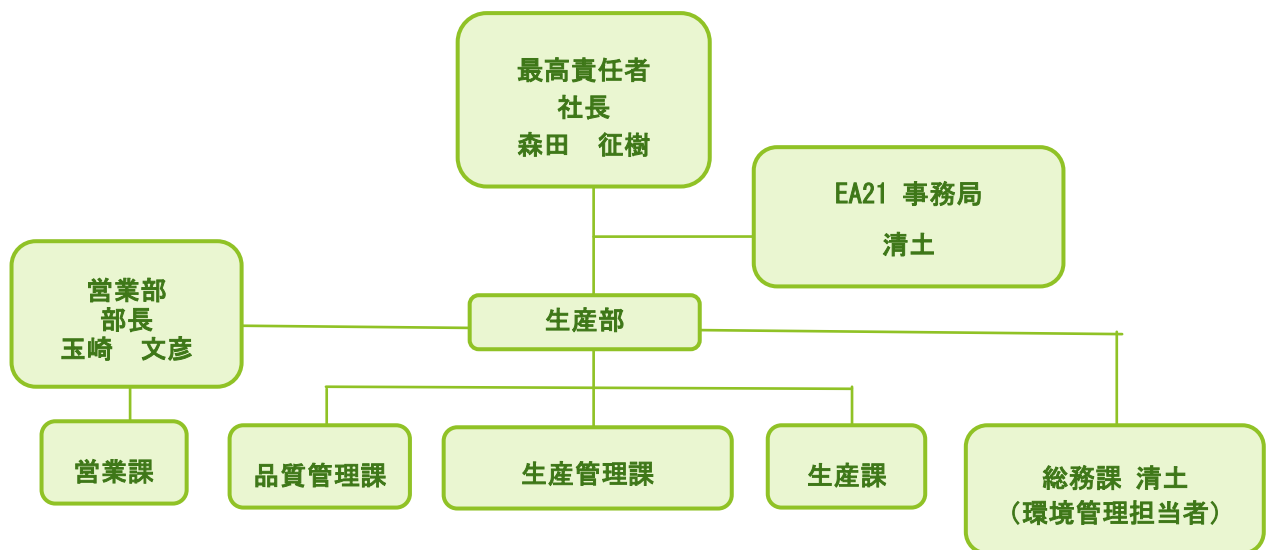
事業年度

4 月 ～ 翌年 3 月

有資格者

技能検定線ばね 1 級合格 3 名・技能検定線ばね 2 級合格 4 名
金型製作技能士 2 級合格 1 名・金属プレス加工技能士 2 級合格 1 名
甲種防火管理者講習修了者 1 名・環境社会検定試験（ECO 検定）合格 1 名
プレス機械作業主任者技能講習修了者 2 名・はい作業主任者 1 名
フォークリフト運転技能講習修了者 4 名・ガス溶接技能講習修了者 2 名
アーク溶接特別教員講習修了者 1 名・危険物取扱者乙種第 4 類 2 名
消防設備士乙種第 6 類 1 名

環境経営システム図



役割・責任・権限について

● 最高責任者

- ・ 環境管理責任者を任命。環境マネジメント業務（以下 EMS と略す）の構築・推進・維持にあたり必要な資源の確保と提供。
- ・ 環境経営方針の決定。
- ・ 環境経営目標の設定の指示。

● 環境管理責任者

- ・ EMS に関する資源の合理的・効果的な運用。目標達成・維持。
- ・ EMS に関する情報を社長に提供。

● 環境管理担当者

- ・ 環境管理責任者の補佐。EMS に関する実務業務全般。
- ・ EMS に関する情報を収集し、管理責任者へ提供。

● 従業員

- ・ 環境管理責任者・事務局及び当該部署長の指示に基づき行動する。

主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年度 (2022年度)	2023年度 2023/4～2024/3 (レポート対象期間)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	85,824	83,947
〃	kg-CO ₂ /t	833	1,119
一般廃棄物排出量	kg	2,155	1,510
〃	kg-CO ₂ /t	20.9	20.1
産業廃棄物排出量	kg	450	0
水資源投入量 (上水)	m ³	225	201



6.17 屋上のエアコン
室外機遮熱シール張替え。



7.11 リサイクル集積場の整理。



11.14 コイルマシン MX-20B 導入。

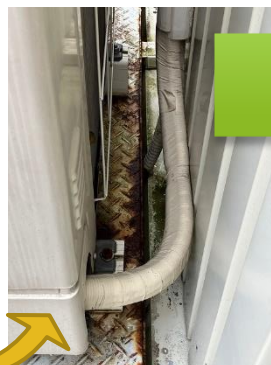
裏山で採れた筍。
ベランダで栽培のネギ。
従業員で美味しく
いただいています。



3.7 消防訓練。



10.6 エアコン室外機
配管カバー修理。



環境経営方針

基本理念

創意と誠意で環境に優しい会社を目指します。

基本方針

- ① エコアクション 21（環境経営システム）に積極的に参加し、
全社一体となって実施・維持いたします。
- ② 生産活動ならびに製品が環境に与える影響を的確に捉えます。
汚染の予防と環境負荷の低減を目指すための目標を設定し、
環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。
- ③ 次の事項を重点的テーマとして環境目標を設定し、取り組みます。
 1. 電力・ガソリン・軽油・灯油の削減による CO2 排出の削減。
 2. 廃棄物の分別、リデュース・リユース・リサイクルによる廃棄物の排出抑制。
 3. 水使用量の削減。
- ④ 環境配慮製品の使用
グリーン購入の継続。
- ⑤ 環境関連法規制、条例、その他同意する要求事項の遵守。
- ⑥ 「環境経営方針」は全社員に周知すると共に、環境教育を行い職場だけでなく
家庭においても環境に関する意識を向上させるよう図る。
- ⑦ 「環境経営方針」の社外への開示、関係先への周知。

2009 年 7 月 15 日 制定

2020 年 5 月 14 日 改定

株式会社森田スプリング製作所
代表取締役社長 森田 征樹



環境経営目標および 2023 年度実績

		2022年度 基準年度	2023年度		達成度	2024年度	2025年度
			目標	実績		目標	目標
製品重量	t	103		75			
二酸化炭素排出量 (絶対値)	kg-CO2	85,824	84,966	83,947	○	84,107	83,249
			1% 減	101%		2% 減	3% 減
二酸化炭素排出量 (製品重量あたり)	kg-CO2/t	833	825	1,119	×	816	808
			1% 減	74%		2% 減	3% 減
電力(絶対値)	kWh	177,056	175,285	173,284	○	173,515	171,744
			1% 減	101%		2% 減	3% 減
	kg-CO2	76,842		75,205			
電力(製品重量あたり)	kWh/t	1,719	1,702	2,310	×	1,685	1,667
			1% 減	74%		2% 減	3% 減
ガソリン・軽油・灯油 (絶対値)	ガソリン(L)	1,409		1,355			
	軽油(L)	2,041		1,996			
	灯油(L)	180		180			
	kg-CO2	8,983	8,893	8,741		8,803	8,714
			1% 減	102%	○	2% 減	3% 減
ガソリン・軽油・灯油 (製品重量あたり)	kg-CO2/t	87.2	86.3	116	×	85.5	84.6
			1% 減	74%		2% 減	3% 減
水使用量(絶対値)	m³	225	222	201	○	220	218
			1% 減	110%		2% 減	3% 減
一般廃棄物(絶対値)	kg	2,155	2,133	1,510	◎	2,112	2,090
			1% 減	141%		2% 減	3% 減
一般廃棄物 (製品重量あたり)	kg/t	20.9	20.7	20.1	○	20.5	20.3
			1% 減	103%		2% 減	3% 減
ダンボール + 新聞紙	kg		継続	継続		継続	継続
金属くず	仕損じ件数(件)		継続	継続		継続	継続
	再資源化重量 (kg)		継続	継続		継続	継続
グリーン購入		環境配慮製品の 購入	継続	継続		継続	継続
他、導入設備等				MX-20B 11/14購入			

※CO2の排出係数は0.434にて計算(単位:kg-CO2/kWh) (2024年1月15日 関西電力調整後のCO2排出係数)

平成30年実績 — R2.1.7 環境省・経済産業省公表

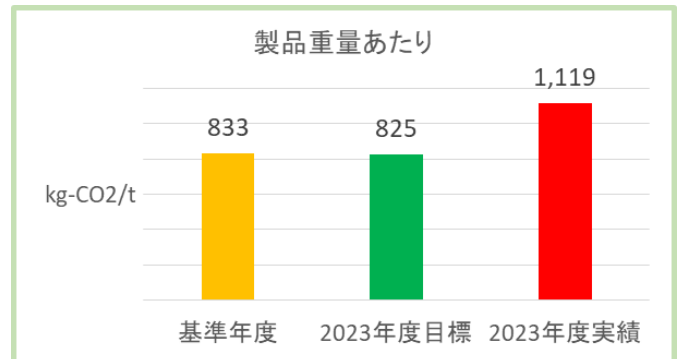
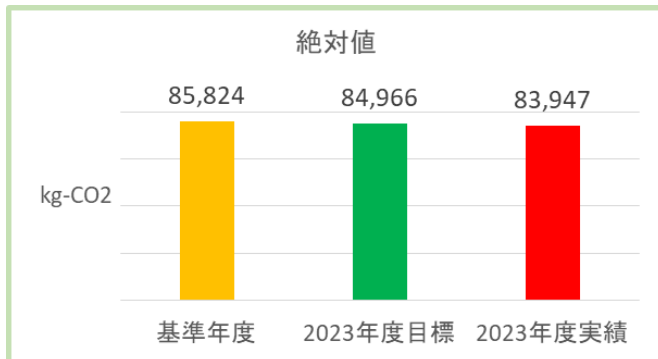
評価区分 ◎ : 120% ≤ 目標達成率 、 ○ : 100% ≤ 目標達成率 < 120% 、 △ : 80% ≤ 目標達成率 < 100%

× : 目標達成率 < 80% 、 — : 評価できない

目標達成率の計算 削減目標の場合 : 目標 ÷ 実績 × 100 増加目標の場合 : 実績 ÷ 目標 × 100

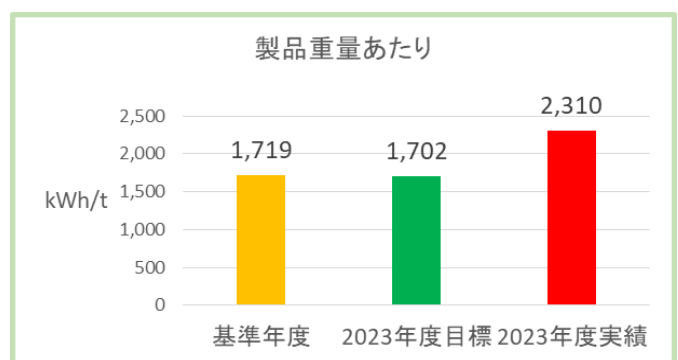
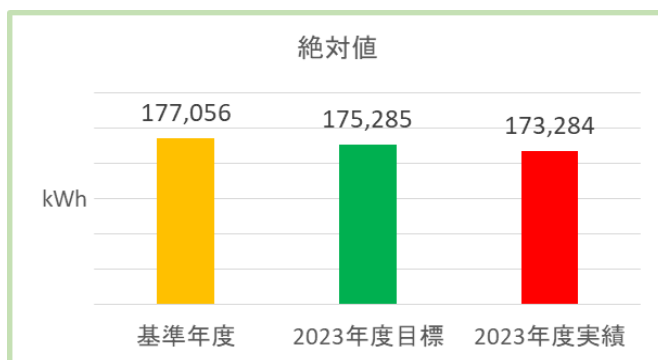
主要な環境経営計画の内容

二酸化炭素



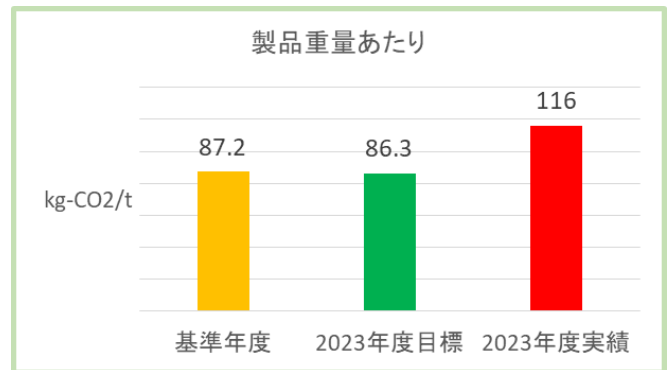
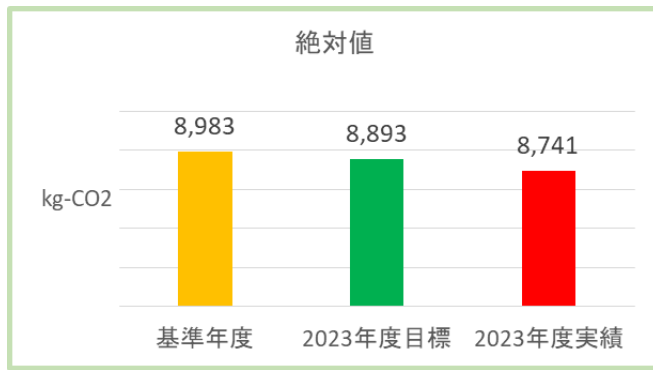
目標は電力とガソリン・軽油・灯油の使用で排出された CO2 の削減とし、2022 年度実績の 1%削減とする。
生産量が減少し、製品化重量が大幅にダウンしたため製品重量あたりの実績が目標に及ばない結果となった。

電力



取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の動向)	次年度
電気使用量の削減(絶対値)	○	目標達成。	継続
(製品重量あたり)	×	未達成。	
ピーク電力カット・昼休み中の電力カット	◎	館内放送や節電啓発看板による注意喚起。	継続
節電意識の向上	◎	デマンドメーターの警報による冷暖房の温度調整・機械稼働時間の調整など。	継続
電力使用量の実績調査	◎	検診表を基に月に1度の調査を継続。	継続
使用量の削減は達成できたが、売上と生産量の低下により製品重量あたりの目標が未達成であった。			

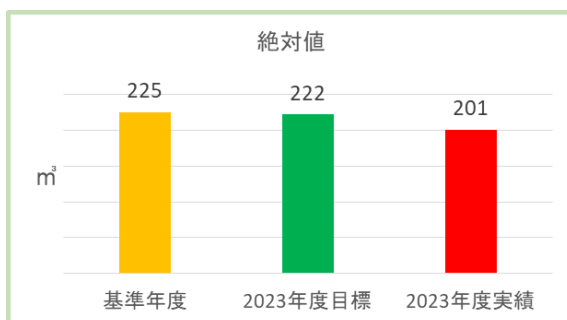
燃料（ガソリン・軽油・灯油）



取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の動向）	次年度
ガソリン・軽油（絶対値）	○	配送ルート効率化・配車の適正化を実施。 製品重量あたりではわずかに目標に達しなかった。	継続
（製品重量あたり）	×		
エコドライブの啓蒙・教育・体制づくり・講習会の実施	○	今年度は特になし。今後も情報を確認しながら必要な教育や研修があれば取り入れていく。	継続
燃料購入記録・燃費データの管理	◎	月次で実施。	継続

ガソリンは前年比で給油量が減少しているが乗車回数は増えている。燃費は前年度より不良、近場の訪問回数増加が影響していると考えられる。軽油についても同様の実績で今後更にエコドライブや効率化を心掛けて活動する。

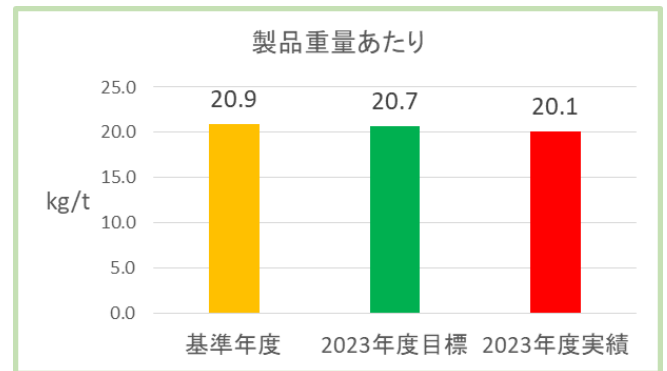
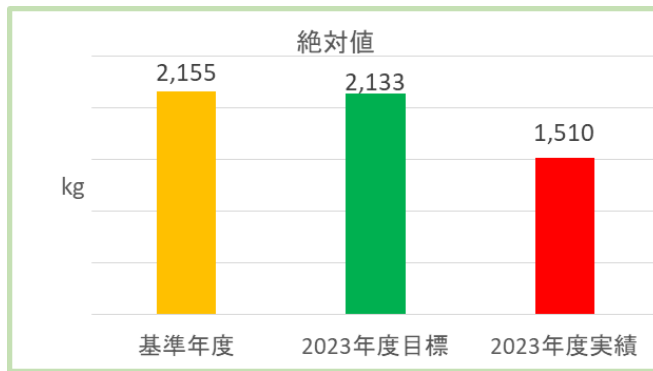
水 使用量



取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の動向）	次年度
トイレの2度流し禁止	◎	継続。女子トイレは「オトヒメ」使用。	継続
水漏れ・蛇口の締め忘れ防止	◎	従業員に節水意識が浸透している。蛇口の緩みや水漏れがないよう啓発物を水道近くに掲示。環境委員による毎日のメーターチェックは継続。	継続

今年度は設備（ハード面）の更新がない状態で目標を達成。日頃の全従業員の取組と意識の成果と考えられる。引き続き目標を達成できるよう継続していく。

一般廃棄物



取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の動向)	次年度
一般廃棄物の削減(絶対値)	◎	絶対値・製品重量あたりともに目標達成。	継続
(製品重量あたり)	○		
重量の記録・集計	◎	月次単位の集計を実施。	継続
リユース・リサイクル	◎	継続して一般廃棄物を削減。PP袋は再利用している。	継続
上白紙・梱包材の再使用	◎	裏紙利用を継続。	継続
購入品の実績調査	◎	前年比で段ボール79%、袋類65%、テープ類79.8%、コピー用紙77%。過剰に購入しないよう注意している。	継続
前年度は絶対値・製品重量あたりとも目標に及ばなかったが今年度は両方で達成。引き続き分別やリユース・リサイクル等に努めて注視を心掛ける。			

金属くず

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の動向)	次年度
リサイクル会社に渡す重量の記録	◎	実施。今後も継続。	継続
仕損じ品件数の記録	◎	コイル生産工程(マシン)の発生は「廃棄品申請書」で記録。	継続
分別	◎	再資源化率100%の継続。材質ごとに缶を設けている。	継続
金型の資源化処理	◎	実施・継続を徹底。	継続
材料購入重量記録	◎	月次で記録・集計。今後も継続。	継続
分別を継続する、仕損じによる廃棄量を少しでも減らしていく。			

マテリアルバランス

■ 資源消費量

製品原材料

金属	82t
その他	0.47t

■ その他材料

梱包用 PP	0.89t
段ボール・紙類	6.5t

■ 総エネルギー消費量

原油換算量 48kL
 (原油換算値：ECCJ
 省エネルギーセンター2010/20114.5
 エネルギー使用量簡易計算表による)

	内訳
電気	173,284kWh
石油等	3.5kL

■ 水使用量 201 m³



■ 製品 75t

■ CO2 84t
 (CO2 排出係数：0.434kg-CO2/kWh)

■ 廃棄物量

- ・生産系廃棄物 9.9t
- ・うちリサイクルされた量 8.4t



算出方法



- 資源消費量 2023 年度に出荷した主要製品の材料投入量
- 総エネルギー消費量 2023 年度に対象となる事業所で使用された電気、石油などの総量
- 原油換算 電気、石油などを原油に換算して算出。
 ※ 原油換算値は ECCJ 省エネルギーセンター2010/20114.5 エネルギー使用量簡易計算表による
- 利用量 2023 年度に対象となる事業所で使用された上水の総量

環境関連法規の遵守状況

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動など)
廃棄物処理法	一般廃棄物
騒音規制法・振動規制法	空圧機・機械プレス
土壤汚染対策法	第3条第1項ただし書きの届を提出
消防法	炭化水素溶剤の保管
フロン排出抑制法	コンプレッサー・業務用空調機器の点検の実施
浄化槽法	浄化槽

環境関連法規制などの遵守状況の評価の結果、環境関連法規制などは遵守されていました。
 違反・訴訟などは過去 3 年間ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による評価			
環境経営方針 見直しについて	☐ 有	☒ 無	☐ 要経過観察
環境経営目標・計画 見直しについて	☐ 有	☐ 無	☒ 要経過観察
実施体制	☐ 有	☒ 無	☐ 要経過観察

- 新型コロナウイルスが2類から5類になり、活動制限が少なくなってきた。
本来の活動にシフトを戻していくが、世界での紛争や対立の影響も及んでいると感じる。
エネルギーや材料・副資材の価格高騰は弊社も例に漏れず、省エネルギーを考慮した生産の効率化、CO2 排出量が少ない設備や資材の選定、材料の仕入れ高によるコスト計画など引き続き取り組んでいく。
- 製品化重量は100t 超が続いていたが（2020 年度 102t、2021 年度 115t、2022 年度 103t）今年度は75t と大きく例年を下回り、売上も低下した。
- エコアクションにおいては全項目で絶対値では目標を達成したものの、製品重量あたりでの達成は一般廃棄物のみとなり、情勢の変化を感じる。
- 電気については絶対値で目標を達成、日々の活動の成果は表れている。製品重量あたりではわずかに未達成となり、コロナ禍の経営状況との違いを感じる結果となった。
- 燃料では営業活動で得意先訪問や出張の頻度が戻り、エコドライブなど効率のよい運転や配送ルート工夫などに継続して取り組んでいく。
- 水の使用量は2021、2022 年度で社内3カ所のトイレを節水型に変えて以降、使用量の減少が顕著になっている。今年度は設備の手入れがなくとも目標を達成し、日頃の従業員の取り組みの成果と言える。
- 一般廃棄物は絶対値・製品重量あたりとも2022 年度は目標達成できなかったが今年度は達成。製品化重量の減少と連動していると見られるが、日頃の分別・リサイクルが実を結んでいる。
- 金属くずは近年、廃棄件数と重量が減少傾向にあり、今後も生産活動の向上化を期待できる。
- グリーン購入は常に最新の情報を取り入れて活動するのが望ましい。
- 環境経営目標の見直しについては当面経過観察とする。